

# 平成30年第10回教育委員会議事録

平成30年6月27日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 平成30年6月27日（水）午後2時00分～午後2時32分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 井出 隆安 委員 對馬 初音

委員 久保田 福美 委員 伊井 希志子

委員 折井 麻美子

出席説明員 事務局次長 田中 哲 教育企画担当部長 白石 高士  
教育人事企画課長

学校整備部長 大竹 直樹 生涯学習担当部長 鈴木 雄一  
中央図書館長

庶務課長 都筑 公嗣 学務課長 高山 靖

特別支援課長 阿部 吉成 学校支援課長 高沢 正則

学校整備課長 渡邊 秀則 学校整備担当課長 岡部 義雄

済美教育センター長 平崎 一美 済美教育センター統括指導主事 寺本 英雄

済美教育センター統括指導主事 古林 香苗 済美教育センター就学前教育担当課長 東口 孝正

中央図書館次長 加藤 貴幸 副参事 (子どもの居場所づくり担当) 倉島 恭一

事務局職員 庶務係長 佐藤 守 法規担当係長 岩田 晃司

担当書記 小野 謙二

傍聴者 1名

## 会議に付した事件

### (報告事項)

- (1) 地域教育推進協議会の新規設置について
- (2) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について

## 目次

### 報告事項

- (1) 地域教育推進協議会の新規設置について・・・・・・・・・・ 4
- (2) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について・・・・・・・・ 12

**教育長** ただいまから平成30年第10回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

本日の会議につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

**庶務課長** 本日の議事録の署名委員につきましては、教育長より事前に折井委員との指名がございましたので、どうぞよろしくをお願いいたします。

続きまして、本日の議事日程についてでございますが、事前にご案内のとおり、報告事項2件を予定しております。

以上でございます。

**教育長** それでは、本日の議事に入ります。

報告事項の聴取を行いますので、事務局から説明をお願いいたします。

**庶務課長** それでは、報告事項1番「地域教育推進協議会の新規設置について」、学校支援課長からご説明申し上げます。

**学校支援課長** 私からは、「地域教育推進協議会の新規設置について」ということをご報告させていただきます。地域教育推進協議会については、平成22年度に天沼中学校区、平成25年度に高円寺地区に設置をされて、活動がこれまで進められてきました。

杉並区実行計画、それから杉並区教育ビジョン2012推進計画においては、平成30年度中に新たな1地区を設置することとなっております。平成29年度中は、地域バランスやあるいは新しい学校づくりの状況など総合的に勘案して、新規設置地区の検討を進めてまいりました。

この度、新規設置地区関係者との協議が調ったことから、以下のとおり新たに1地区を設置させていただくということで、ご報告させていただきます。

新規設置地区でございますが、杉並和泉学園校区でございます。

地区選定の理由でございますが、1つは校区内にある日大鶴ヶ丘高校、専修大学付属高校、さらには明治大学が地域教育連絡協議会懇談会事業にも参加していただいて、子どもの成長について連続性を持って見守る地域の教育機関との協力関係が築かれているということがございます。

それから、もう1つは、地域住民と杉並和泉学園などが連携して「ふるさと和泉」を掲げて地域の祭りを開催するなど、地域の子どものための成育環境をよくしようとする意識の高まりがございます。

さらには平成28年12月に、区内初の「子ども子育てプラザ和泉」が杉並和泉学園に隣接した場所に開設をしました。未就学児を含めた子育て

と地域の教育にかかわる課題を一体的に考えやすい環境が整ってございます。加えて、新しい学校づくりの協議会を設置して、これまで長い年月をかけて懇談会等で様々な地域の皆様が、こうした新しい学校をつくるに当たっての、それぞれの教育力がそういった年月の中で高まってきたというところがございます。機が熟されたのかなど、こんなふうに考えております。

3番目でございます。和泉学園校区の関係者との協議経過でございますが、昨年、地域教育連絡協議会会長、それから青少年委員、地域の協力者及び和泉学園の学園長等々、協議を行って地域教育推進協議会設置に向けた合意が得られたものでございます。

委員構成でございますが、別紙をおめくりください。記載のとおり、それぞれ和泉学園の関係者、さらには校区内の企業関係者、さらには担当の青少年委員、さらには商店会関係者を初めとする地域の協力者等で構成されております。

戻っていただいて、今後のスケジュールでございますが、7月上旬に協議会の活動を開始して、交付金を交付させていただいた後、8月4日の「ふるさと和泉みんなの夏祭り」、これが立ち上げイベントとなっております。

私からは以上でございます。

**庶務課長** それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

**久保田委員** 昨年告示されました新学習指導要領の社会に開かれた教育課程ということが、大変今、強調されています。そんな中で、いわゆる地域をベースにした教育をつくり上げていくという意味で、今回、和泉地区で地域教育推進協議会が設立されるということは、とても有意義なことであり、大事なことかなと改めて思いました。

やはりチーム学校というものが、地域をベースにした、まさにチーム学校から地域〇〇。今回で言えばチーム和泉。以前で言えばチーム天沼、チーム高円寺。そういった形でやはり地域を挙げて学校教育を盛り立てていくということは、本当にすばらしいなと思っています。

そんな中で、これまでのいわば地域教育連絡協議会これがまだ圧倒的に多い中で、これから地域教育推進協議会、いわゆる地教推という形で移行していくということについて、現段階でどのような質的な違いがあ

るのか。そして全て地域教育連絡協議会から地域教育推進協議会に移行していくと考えてよいのか、その辺の見通し等も含めて教えていただければと思います。

**学校支援課長** まず、特長というか、移行に関しての状況でございますが、地域教育連絡協議会につきましては、どうしても情報交換的な部分が大勢を占めておりました、地域の教育的課題をその地域でみんなでもらえて、また取り上げて、解決に向けて分科会みたいなのをつくってとはなかなか至らなかった状況です。それが、この地域教育推進協議会になることによって、新たな人材としてまちの方たちと取り組む中で、私たちはこういう協力ができるだとか、そういった取組が可能になってきますので、少し情報交換をした中で、こういうことが課題だといったものを地域の中で解決する、そういった動きが進んでいくのかなというのが、これまでの天沼、高円寺を見てきた中では進めていただいておりますので、この和泉も同じように進めさせていただくということでございます。

また、計画上はもう1地区、計4地区ということで掲げさせていただいておりますので、無事に和泉ができ上がった後は、さらにもう1地区を当然進めていくのですが、ただ、先ほど申しました地域の教育力というかそういうものが地域の中で熟成されてこないとなかなか移行には進んでいかないのかなと思いますので、そういう意味では、杉並の中でちょうど東西南北と分けた場合には、これまで3つぐらい何とかいい感じでできてきておりますので、今回も東、東南のところの地域が和泉地域ですから、最後は西側の南側にもし可能であれば、そんな流れになるのかなと思います。

以上でございます。

**久保田委員** ありがとうございます。

**伊井委員** これまで、天沼地区とそれから高円寺地区で地域教育推進協議会という形で発展してきていると思うのですがけれども、コンパクトでいいので、天沼地区、それから高円寺地区の特長といいますか、進化している点といいますか、課題解決までいっているかどうかわかりませんが、成果という言葉もそのまま当たるとは思いませんが、より進んだところとか、よりよくなった点を教えたいいただき、また今回、この和泉の地区で柱となるようなことが見通してとしてありましたら、教えていただきたいと思います。

**学校支援課長** 天沼は、当然パイロット的な役割を担っておりますので、最初の第1号でございますから、様々な地域の課題を天沼の中で、特に事務局主導で相当児童館の方とか、あるいは青少年委員とか、こういったところが主体となって進めていただいて、子どものイベントというのですかね、そういったものを中学校の中でしっかりと進めてきていただいて、今は相当参加者も増えて、地域に定着しているというのが、天沼の状況かなと思います。

高円寺については高円寺シップといった高円寺独特の、ここは北側と南側に分かれているところを1つにして、高円寺のまちづくりも含めて進めてきましたので、そこは様々な取組の中で、今回の高円寺小中一貫教育校にもつながっていったのかなと、こういうふうに思います。

それから、和泉については、これまで地元と調整をする中では、「ふるさと和泉」というのをキーワードにして、この和泉の地域に子どもが育って行って、必ず戻ってきて、また地域に還元をする、そういった部分があります。あとは防災・安全という部分もお話はございましたので、この辺についてもしっかりとこの協議会の中で進めていく、こんな状況でございます。

**伊井委員** 昨今の様々な事柄がありますね。心配な部分もあります。是非本当に子どもたちを地域で育てていくというか、そんな考え方で、天沼地域、高円寺地区、和泉地区、それぞれに構成される方々とか、それぞれの地区で特長もあるとは思いますが、その辺を前向きにとらまえて、いい形で進めていただけたら、また子どもたちの未来につながるのかなと思います。防災・安全・安心というところは、本当に今のこの時代にぜひ押さえていただけたらありがたいなと思います。お願いいたします。

**對馬委員** さっき天沼地区がパイロット地域だとおっしゃって、立ち上げのときから見ていて、一住民として見ていくと、お祭りをやっているグループみたいな感じがしています。要するに、中学校中心としたお祭りをやることで、中学生が力を発揮していたり、それから活躍する場を与えたり、それから地域の人と協力しながらやっていたり、あるいは小学校に宣伝して、そこが繋がっていたり、すごくいろいろな力が発揮されていて、いいつながりになっていると思うのですが、それが地域教育推進協議会という地域の教育課題を解決するための1つのイベ

ントがこのお祭りなのだよという感じではなくて、何か中学生のお祭りにみんなが協力しているようにしか写らないというか、そのような印象がとてもあるので、地域教育推進協議会とは、さっきおっしゃったように、地域にいる大人たち、あるいは地域の人たちが、教育課題を解決していければいいなということであって、お祭りを通してつながっていくことでいろいろな課題が解決できる、そういう仕組みなのだよということがもうちょっと伝わってもいいのかなと感じるところはあります。

あと、やはり地域教育連絡協議会だった時代に、青少年委員とか防災とか、いろいろな会議が地域にあって、会議に出ていくと、ほとんど同じ人が名目だけ違っていろいろな会議に出ているのが、これがやっぱり負担になるという話もずっと出ていると思うのですが、そのあたりは地域教育推進協議会になってきたことで、少し整理されているのでしょうか。地域の方のご負担があまり増えない形で、子どもたちにいいものが返されているのだろうか。子どもたちだけでなく、まちにいいものが返されているのだろうかということを教えていただけたらと思います。

**学校支援課長** 今、委員におっしゃっていただいた、まさにその部分が1つポイントなのかなと思ひまして、そういう意味で、議論する中では、当然、今まで分散されていてこっちもやらなければいけない、あっちもやらなければいけないというものを1つにすることによって、地域方々の負担感が軽減されるというのは事実でございます。

**折井委員** 對馬委員の質問と関連していると思うのですが、先ほどのご説明で出てきた、初めての1つのイベントが夏祭りということで、最初のスタートとしてはいいなとは思ひのですが、27名程度の方々にかかわっていただいて、会議の様子というのでしょうか、天沼や高円寺と同じなのか、それとも違う形をとるのかわかりませんが、会議体がどのくらいの頻度で、そして27名の方が一堂に会して何か関与するのか、それとも分科会のような形でそれぞれ話し合いをするのか、そのあたり中身の部分を少し教えていただけますでしょうか。

**学校支援課長** 会議体につきましては、基本的には運営委員会というものを多分、立ち上げる形になると思います。そこは、当初役員の皆様が運営委員会で、そこは事務局のメンバーを含めた大体14、15人前後だと思います。それから全体会につきましては、ここには27人と書かかせていただいておりますけど、30人近くなるかと思ひます。そこは、この役員会

の運営委員会で決めたものを実際にここで最終決定をしていただくと、全体の周知も含めて進めさせていただくと。

これまで地域教育推進協議会については、運営委員さんとか役員の方が進めていくというのは、これまでの地域教育推進協議会については、そんな形で進めさせていただいた。具体的には様々、地域の課題だとなったときには、そういう分科会をつくって、このメンバーの中で、一番近いコアのメンバーが中心になって課題の分科会をつくって、少し議論を進めて解決していく。こんな流れになると思います。ここは子どもの施設、いわゆる保育園だとかそういったところも非常に増えておりますし、そういった就学前のお子さんの課題もございますので、また分科会等通してつくって、進めていくと。こんなような流れなのかなと思います。

**教育長** 15、16年前、平成15、16年のころ、地方分権ということがよく言われたときに、国を中央としたら、それ以外のものを地方と、そういう意味での地方と、それから自治体であっても杉並なら杉並という自治体を中央としたら、各地域を地方と位置づける、つまり何か中心になるものと、その周りにあるものとの関係をあらわす考え方で、分権が非常にはやった時期があって、当時、地域教育委員会構想というのがあったのですね。私は直接かかわってないのですけれども、教育のかなりの部分を自治体の教育委員会から地域の、例えばここだったら天沼地区の天沼地区教育委員会、高円寺地区教育委員会という形におろしていくことができないう議論をやっていた経過があったのですね。だけれども、もともと教育のあり方が、分権とどう整理されるのかということが、折り合いがつかないままどこかに消えていったというか、形が変わっていった、新しくあらわれてきた考え方の1つに、子育てのこと、あるいは地域の子育てにかかわる問題についてみんなで話し合いながら解決していく、そういう自治的な組織をつくっていく必要があるという議論がされるようになってきました。

私はいつも思うのですけれども、こういう組織とか、まとまりというのは自治的でなければいけないと思います。教育委員会とか区役所の仕事の出先機関のような形に位置づけて、区ではこうやるから、それを取りまとめて各地域ではこうやってくださいとか、区の教育委員会ではこういうふうにとやろうと思っているから、出先で意を受けて、そういうふ

うにやってくださいという、そのためのブランチをつくっていくのではなくて、自分たちの身の回りことは自分たちで解決していこうということです。簡単に言えば自治になるわけですがけれども、財源とかいろいろなものから考えていくと、いわゆる一般的な自治とは違うけれども、自分たちのことは自分たちで考えていこうという主体性がないと、仕事の下請けのような形になってしまうのですが、私は、それは間違っていると思うのです。ですから、今、盛んに問われている地域コミュニティの再生といったときに、町会が脆弱化し、あるいは商店会あるいは消防組織のようなものも決して足腰が丈夫ではない。つまり地域の社会生活を維持していくためのいろいろな制度がかなり脆弱化していつている中で、問題も複雑になってきている。

その一方で、解決能力も落ちてきているから、なかなか物事は解決しない。そういうときに、せめて子どもを育てるという共通の願いについては、みんなで知恵を寄せ合って、力を出し合って、できる範囲のところでやっていこうという合意が形成されれば、まちづくりにつながっていく。それがずっと前から言っている、「いいまちはいいい学校を育てる」ということです。みんなの力で子育てをしていく、その子育てや教育を通して得られた様々な社会関係資本、人間関係資本が、簡単に言えばみんなで力を合わせていくという仕組みが、今度は身近なまちづくりにつながり、自分たちが住んでいるところを活性化していく力になって返ってくるだろう。それをずっと言い続けてきていて、その1つがこういう教育という切り口で、あるいは子育てという切り口で地域の力を同じ土俵に集めて、知恵を出し合ったり、力を出し合ったりして、解決できるものは解決していこうという、かなり自治的な要素を持った機関であってほしいなど、そう思います。

高円寺地区なんかを見ていると、「高円寺シップ」という言葉にあるように、自分たちの高円寺の地域の子どもたちはみんなで面倒を見ていこうという動きがすごく強いですよね。それに対して自信とか誇りのようなものを持っていて、どこの子であっても高円寺の子はみんなで面倒をみていきましょう。高円寺の古い歴史をまとめたカルタをつくって、高円寺のことをもっとよく知ろうとか。中学生が社会体験に行くのだったら何も遠くの新宿や吉祥寺に行かなくても、身近な高円寺の商店会や何かで引き受けてもらって、何とかさんちの息子が来ているよと、顔もわ

かっているし名前もわかっている。その中で小言も言われて、たまには怒られて、まじめにやれなんて言われたりしながら支えてもらって、社会体験を1週間やってくる。そういう受け皿をつくっていこうというのが、高円寺シップにあったのですよね。今、それが定着して、高円寺中の社会体験の活動は全部地元高円寺で引き受けてもらっているわけです。そういうふうにもいろいろな教育的な課題を受けとめていく受け皿をつくっていく。そこの足腰の力を強くしていけば、かなりのことについて、自分たちで解決していくことができる。この間の実績もないわけではないし、たくさん見てきているので、是非そういうものに成長してほしいなと思います。

ですから、私たちの仕事は、私たちがやらなければならない仕事をちぎって渡してこれをやりなさいという下請け機関をつくっていくのではなくて、協働してやっていく、たくさん橋頭堡を築いていくというか、そういうふうにも考えていけば3つになって、次はさっきの南西部の辺かなという幾つかのモデルをつくっていくときの参考になるし、是非先行している地域教育推進協議会の実績や課題を新たに立ち上げるところに紹介しながら、それをサポートしていくような仕組みにしてほしいなと思います。

**学校支援課長** 特に、和泉につきましては、議論をする中では、本当に天沼、高円寺とは違うものということで、それぞれの委員の皆様が、毎日議論していただいておりますので、そういう中では初年度は、まずはこういう形で立ち上げさせていただいて、今、委員の皆様に様々ご指摘いただいた部分を最終的には時間がかかっても高め合っていく、このような状況になると思いますので、よろしく願いいたします。

**教育長** もう1つお願いがあるのだけど、構成員メンバーの6番のその他のところ、地域協力者とあるでしょう。いろいろな足場を持っている方たちばかりではなくて、いろいろな人が参加できるようにしていく必要があるのだけれども、この1から5までの中で、ゼロ歳から5歳までにかかわる人というか、ゼロ歳から学校に入るまでの年代に主として関わっている人は子ども子育てプラザの所長しかいないわけでしょう。そうすると、6番の枠の中で実際に就学前の子どもを育てているお母さんとか、そういう子どもを預かっている保育施設なり、そのあたりからも関係している人が出てきてくれるようにしておいたほうがいいですよ

ね。

**学校支援課長** いずみんなクラブだとか、お話の会の代表の方とか様々いらっしゃると思いますので、さらには近隣には民間保育園あるいはそういったところもごございますので、そういったメンバーもしっかりと声をかけていきます。

**庶務課長** よろしいでしょうか。それでは報告事項1番につきましては、以上とさせていただきます。

続きまして報告事項2番「杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について」、生涯学習担当部長からご説明いたします。

**生涯学習担当部長** 平成30年5月分の杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認につきましてご報告いたします。5月分の合計ですが、36件。内訳につきましては、定例が34件、新規2件となっております。共催・後援別では、共催12件、後援24件となっております。

新規の2件ですが、1件目は資料3ページになります。ご覧ください。生涯学習推進課の承認分で、名義形態は後援、団体名は科学読物研究会、事業名は「科学芝居「酸素～誰が『発見』した？～」」でございます。2件目につきましては、資料の8ページになります。中央図書館の承認分で、名義形態は共催、団体名は科学読物研究会、事業名は「カブトムシはかせになろう！小島渉さんのカブトムシ研究」でございます。

以上でございます。

**庶務課長** それではただいま説明について、ご意見、ご質問ございましたら、お願いします。お願いします。

**伊井委員** 先ほどのお話に関連して、6ページの天沼ピアヘルピング講座企画会は、定例でやってらっしゃるので、これまでも何回かやってらっしゃるのかもしれませんが、ちょっとこの言葉があまり聞いたことがなかったもので、ちょっと調べてみると、助け合うとか、先輩のお母さんのお話を聞くというような、天沼地区ならではの取組なのかなとちょっと興味を持ったのですけれども、わかりますか。

**学校支援課長** このピアヘルピング講座の中身でございますけれども、ピアというのは仲間という意味で、いわゆる先輩保護者をピアヘルパー、相談に乗ってくれる人、こういうふうにつけて、親としての高校受験ということで同じ悩みを抱く保護者の方たちがしっかりと先輩の話を聞きながら、少し悩みとかを共有して、また解決まで至る。こういったこ

との1回目でございます。

**伊井委員** 本当にそういう情報とかちょっとした助言で、救われている方もたくさんいらっしゃると思うので、是非進めていただきたいと思います。ありがとうございます。

**庶務課長** いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは報告事項2番につきましては以上とさせていただきます。

以上で報告事項の聴取を終わります。

**教育長** それでは以上で本日、予定しておりました日程は全て終了いたしました。庶務課長、連絡事項がございましたら、どうぞ。

**庶務課長** 次回の教育委員会の日程でございますが、7月11日水曜日、午後2時から定例会を予定してございます。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

**教育長** それでは本日の教育委員会を閉会いたします。